

学級活動（２）指導案

1年4組24名 指導者 上原 孝夫

○ 本実践は、以下の検証を行うものである。

本時の活動において、挿絵や具体物を提示したり、G Tやビデオを活用したりすることで、子ども一人一人の必要性を高め、自分の課題に合った自己決定を促すことができるのではないか。

1 題材名 たのしいとしょかん（学級活動（２）一オ）

2 子どもの実態

題材に関わる子どもの実態は、次の通りである。

調査実施日：平成24年5月7日（月） 調査人数：24人（男子14人 女子10人） 複数回答可

① 読書は好きですか。 はい23人 いいえ1人

② ①で「はい」と答えたのはなぜですか。 勉強になる、頭がよくなる、字を読む練習になる、わくわくして楽しい

③ ①で「いいえ」と答えたのはなぜですか。 読むと疲れる

④ 本を扱うときに気を付けていることはありますか。 汚くしない、破らない、ほつたらかしのしない、ふまない、本を立てる、読んだら本棚に直す、ゆっくりめくる

本学級の子どもは、4月下旬に学校図書館オリエンテーションを行い、学校図書館の場所や本の借り方・返し方について学習し、1冊目の本をうれしそうに借りる姿が見られた。現在も学校生活の中で、借りた本や学級文庫の本を進んで読んだり、目を輝かせながら読み聞かせに集中したりする姿も多く見られる。

アンケートの結果からも、読書が好きと答えた子どもが多く、その理由として、いろいろな知識を得たり、お話の世界を想像したりすることの楽しさを挙げている。また、本を破らないように読むなど正しい本の扱い方等についても理解している子どもも多い。このように、読書の楽しさを味わったり、学校図書館の利用の仕方を理解したりしていると言える。

しかし、読書の様子を見てみると、クイズなどの同じ種類の本だけを読んだり、挿絵だけを見てすぐに本を返したりする子どもが多い。また、図書の間以外に学校図書館に行かない子どももいる。さらに、本の扱い方を理解していても実践に結び付かず、本を丁寧に扱うことのできない子どももいる。ただ「本を借りなさい。」と言葉掛けをするのではなく、意図的に学校図書館を利用したり、継続して読書をしったりする機会を設定し、学校図書館の魅力や読書活動の楽しさを味わわせていく必要がある。

3 題材について

様々な本との出会いは、子どもの心を育て、人生をより深く生きる力を与えてくれるものである。また変化の激しいこれからの社会を担う子どもが、本を読むことで基礎的な知識・技能を身に付けたり、様々な問題に積極的に対応していける力を付けたりしていくこともできる。このように、子どもの読書活動を充実させる必要があり、子どもの読書活動を支えたり、必要な力を育んだりする上で学校図書館を計画的に活用していくことが、より一層大切になってくる。

そこで本題材では、入学して約1か月が経ち、学校図書館を利用し始めたばかりの子どもに、自分の読書活動を振り返らせたり、学校図書館の魅力や読書活動の楽しさに気付かせたりしていき、実践意欲を高め、具体的な取組を自己決定させていくようにする。この題材を通して、「学校図書館に毎日行きたいな。」「本をたくさん読みたいな。」といった子どもの読書意欲を向上させることは、一人一人の「読む・調べる」習慣の確立をめざすための土台を育成することにつながると考え、本題材を設定した。

4 指導に当たって

学校図書館によく通い、日常的に読書活動に取り組んでいる子どもは、昔話や物語などいろいろな絵本を読んだり、興味をもった図鑑を見たりしている。また、本を一人で静かに読むだけでなく、友達と一緒に読んだり、家族に読み聞かせをしてもらったりすることも多い。そこで、指導に当たっては、まず、これまでの自分の読書活動を振り返るとともに、いつでもたくさん本がある学校図書館の魅力に気付き、言葉や知識を学び、想像力と思いやりの心を育むことができる読書活動の楽しさを味わうことができるようにしたい。その上で、自分の課題を解決する自己決定を行い、学校や家庭で継続した実践ができるような手立てを工夫したい。

具体的には、事前の活動では、これまでの学校図書館の利用の仕方や読書活動について振り返り、自分の課題を見付けることができるように、子どもにアンケートを行う。また、子どもの実態をより詳しく把握することができるように、保護者や学校図書館司書へもアンケートを行うようにする。

本時の活動では、子ども一人一人の必要性を高めたり、自分の課題に合った自己決定を行ったりできるように、絵本等の挿絵や具体物を提示したり、学校図書館司書のG Tや多読者のインタビュービデオを活用したりする。また、自己決定に向けたいろいろな解決方法を見出すことができるように、ペアによる話し合い活動を取り入れるようにする。

事後の活動では、実践意欲を向上させたり、継続させたりするために、読書スタンプカードを活用したり、お話クイズや読み聞かせの機会を設定したりする。また、家庭との連携を図り、読み聞かせや親子読書の時間を設定するようにする。

5 評価規準

- 進んで学校図書館を利用したり、日常的に読書活動を楽しんだりしようとしている。
【集団活動や生活への関心・意欲・態度】
- 学校図書館の利用の仕方や読書活動の大切さについて自己の課題に気付き、解決する方法を考え、実践している。
【集団の一員としての思考・判断・実践】
- 学校図書館の利用の仕方や読書活動の大切さについて理解している。
【集団活動や生活についての知識・理解】

6 活動の流れ

	期日	活動内容	教師の手立て	めざす子どもの姿と評価方法
事前	5/7	1 学校図書館を利用するときに気を付けることを考える。	○ 子どもや保護者にこれまでの読書活動についてのアンケートを行い、学校図書館の利用の仕方や読書活動への関心について振り返らせる。	☞これまでの読書活動の様子を想起しながら、学校や家庭でアンケートに答えている。 〈アンケート〉
本時	5/18	1 学校図書館の利用の仕方、読書活動の楽しさや意義について考える。 2 今後取り組んでいくことを自己決定する。	○ これまでの読書活動の様子を振り返らせ、学校図書館の利用の仕方や読書活動について考えさせることで、本を大切に扱ったり、いろいろな本を読んだりしたいという子どもの意欲を高める。 ○ 学習したことを基に、今後どのように実践していくかを自己決定させる。	知学校図書館の利用の仕方や読書活動の大切さについて理解している。〈発言〉 ☞なぜ、学校図書館利用の仕方や読書活動が大切か考えている。〈観察〉 関進んで学校図書館を利用したり、読書活動を楽しんだりしようという意欲をもつことができている。〈発言〉
事後	5/19～	1 自己決定したことを実践する。	○ 自分から進んで学校図書館に通ったりいろいろな本に興味をもって読んだりしている子どもを称賛する。 ○ 家庭での取組について保護者からの感想を紹介し、自分の頑張りを改めて実感させ、実践への意欲を高める。	☞自己決定したことを実践している。〈行動、読書カード〉

7 本時の活動

(1) 目標

これまでの読書活動について振り返らせ、学校図書館の利用の仕方や読書活動の大切さについて理解させることで、進んで学校図書館を利用したり、日常的に読書活動を楽しんだりしようという意識を高める。

(2) 評価規準

- 学校図書館の利用の仕方や読書活動の大切さについて理解し、自己の課題を解決する方法を自己決定しようとしている。
【集団の一員としての思考・判断・実践】

(3) 指導に当たって

指導に当たっては、まず、事前のアンケートを活用し、課題となっている内容を具体化した自作のペーパーサートを提示することで、本時の学習内容を捉えたり、これまでの自分と似ているところや違うところを見付けたりできるようにする。

次に、ペーパーサートに登場した「泣いている本」の挿絵に注目させ、なぜ泣いているのかその理由を考えさせることで、正しい本の扱い方等について考えさせていきたい。また、学校図書館司書が、実物の本を用いながら、正しい本の扱い方の補足説明等や学校図書館についての話をする中で、学校図書館の利用の仕方を理解させたり、読書の楽しさや学校図書館の魅力に気付かせたりしていきたい。さらに、2年生の多読者にインタビューをしたビデオを見せることで、読書活動の大切さに気付かせたり、多読への意欲をもたせていきたい。そして、課題を解決するための意見を出させる際には、ペアで話し合う時間を確保し、新たな解決方法を見出すことができるようにしたい。

最後に、自分が取り組みたい内容を自己決定させる際に、取り組む内容のスタンプカードを選ばせるようにしたい。また、感想を発表し合う場を設定し、自己決定した内容に必要性を価値付けたり、助言したりすることで、実践意欲を高め、自己決定した取組を継続させることができると考えた。

(4) 本時の展開

時間	活動内容	・予想される子どもの意識	○手立て □めざす子どもの姿
8	<p>振り返る</p> <p>1 これまでの学校図書館の利用の仕方や読書活動について想起する。</p> <p>2 本時のめあてを確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本がとても悲しそうな顔をしているね。どうしてかな。 ・破れた本や落書きされた本があるよ。かわいそう。 ・僕は、本を片付けるときに、きれいに並べていなかった。 ・わたしは、あまり本を読んでいなかったな。 	<p>○ ペープサートを提示し、挿絵で登場する本の会話や気持ちを確認させながら、これまでの自分と似ているところや違うところを見付けさせ、自分の学校図書館の利用の仕方や読書活動について想起させる。</p> <p>○ 本と仲良しになるための方法を考え、取り組みたい内容を自己決定するという見通しをもたせる。</p>
30	<p>ほんと なかよしになるには、どうしたら よいだろう。</p> <p>必要性</p> <p>3 本の扱い方、本を読むことの大切さやおもしろさについて考える。</p> <p>解決法</p> <p>4 本と仲良しになるために、取り組みたい内容について話し合う。</p> <p>5 自分が取り組みたい内容について自己決定する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本をぬらしたら、次の人が読めなくなるよ。 ・本の背表紙が壊れると、本がばらばらになるんだね。 ・正しい本の取り方はどうしたらいいのかな。 ・本の高さ揃えるといいんだね。 ・学校図書館には、おもしろそうな本がたくさんあるんだね。 ・本を読むといろいろなことを知ることができるよ。 ・お話のことをいろいろ考えてみると楽しいね。 ・本がにこにこになるように、優しくさわって、大切にしたい。 ・次の人が本を探しやすいように、決められた場所に本を並べたい。 ・本が濡れないようにバッグに入れて運ぶといいね。 ・返す日を守ると、みんながたくさん本を読めるよ。 ・毎日、学校図書館に行くと、きっと本も喜ぶよ。 ・1年生の先生のおすすめの本も読んでみたいな。 ・寝る前に、家の人と一緒に読みたいな。 ・頑張りたい内容が決まったよ。これから続けて取り組み、スタンプをいっぱいになりたいな。 ・明日の昼休みから、学校図書館に行こう。 ・本と仲良しになるために、丁寧に本を扱ったり、いろいろな本を読んだりできらいいね。 ・今日から、続けて頑張るぞ。 	<p>○ ペープサートに登場した泣いている本の挿絵を提示し、その理由を考えさせることで、正しい本の扱い方に気付くことができるようにする。</p> <p>○ 学校図書館司書が、実物の本を使いながら、正しい本の扱い方等の補足説明をすることで、学校図書館の利用の仕方を理解することができるようにする。</p> <p>○ 学校図書館司書が、いろいろな本を紹介したり、学校図書館の話をしたりすることで、読書の楽しさや学校図書館の魅力に気付くことができるようにする。</p> <p>○ 2年生の多読者によるインタビュービデオを見せ、読書の大切さを理解させたり、多読への意欲をもたせたりする。</p> <p>知学校図書館の利用の仕方や読書活動の大切さについて理解している。〈発言〉</p> <p>○ ペアで話し合わせることで、多様な考えを引き出すことができるようにする。</p> <p>思なぜ、学校図書館利用の仕方や読書活動が大切か考えている。〈観察〉</p> <p>○ 出てきた内容について、読書スタンプカードを準備し、自分が取り組みたい内容のスタンプカードを選ばせ、取組を自己決定させる。</p> <p>○ 担任や学校図書館司書が、決定した内容に必要性を価値付けたり、助言したりすることで、実践意欲を高め、自己決定した取組を継続できるようにする。</p>
7	6 活動を通じた感想を発表し合う。		